



2018.6.19

藤島高校図書委員会

## 読書界 6月号

### テーマ「読み返したくなる本」

『スタイルズ荘の怪事件』 アガサ・クリスティー

本作はアガサ・クリスティーの記念すべき第1作である。ある屋敷で起こった老婦人殺害事件。この事件を解決していく中で浮上してくる様々な人間関係。一人の探偵エルキュール・ポアロがこの難解な事件に立ち向かっていく。たくさん証拠らしきものが出てくるが、それをどう扱うかが重要になってくると彼は言う。皆さんも探偵になったつもりで、推理しながら読んでみてはどうだろうか。

3-1 向川綾乃

『か「」く「」し「」ご「」と「』』 住野よる

全く性格の違う高校三年生の男女5人。彼らには共通点が・・・他人の気持ちを表すマークが見えるという特別な力。それが、彼らの「かくしごと」だ。それぞれの視点から、日々の学校生活や友人関係、将来の進路に関することなどが描かれ、共感できることが多い。便利だが、悩みの種にもなる特別な力を持った5人が、不安を抱えながらも互いに思いやり、友情を深めていく。きっと読後に爽快感を味わうことのできるだろう。

2-4 竹澤未依菜

『妖精配給会社』 星新一

飽きない本が読みたい、何回も読み返したくなる本を見つけたいという人におすすめしたいのがこの「妖精配給会社」だ。この一冊には、表題作をはじめとし、「ごきげん保険」や「暗示」などおもわず「あッ」と言わされるものや、ピリリとスパイスの効いたショートショート35編がぎゅっと詰め込まれている。星新一氏は他にも読み返したくなるショートショートをいっぱい遺しているので、ぜひ興味がわいた方には手にとって欲しい。

1-4 石井里奈